

●一般演題Ⅰ 「排尿障害・他」

座長：滋賀医科大学泌尿器科学講座 岡田 裕作

5. 安中散・下腿温灸併用療法の膀胱痛症候群/ 間質性膀胱炎に対する効果

医療法人LEADING GIRLS 横浜元町女性医療クリニック・LUNA
横浜市立大学医学部大学院医学部泌尿器病態学講座
○関口 由紀、関口 麻紀、長崎 直美、槍澤 ゆかり

【はじめに】安中散は、『和剂局方・一切気門』を出典とし、浅田宗伯の『勿誤方函口訣』でも論じられている処方、古来より胃腸障害の治療薬でありながら、月経痛などの骨盤痛にも使用されてきた処方である。我々は、日本東洋医学会総会で安中散が効果的であった間質性膀胱炎の症例を報告してきた。^{1) 2)}しかし臨床現場では、漢方処方単独では、治療効果が充分ではない症例も多く、その有効性を西洋医学的指標であらわすことが難しい。そこで今回我々は、効果増強をねらい安中散に下腿温灸療法を併用して膀胱痛症候群/間質性膀胱炎患者の治療を試みた。

【対象】横浜元町女性医療クリニック・LUNAに通院している女性膀胱痛症候群患者のうち、三環形抗うつ剤（間質性膀胱炎ガイドラインにおいてエビデンスレベルB）を投与したところ副作用により継続内服困難だった症例10例とした。

【方法】初診時に排尿記録、間質性膀胱炎スコアを記載してもらい、まずツムラ安中散 7.5g 食前3×を1～2ヶ月投与しその変化を観察した。その後安中散の投与に加え、患者自身による下腿温灸療法を1～2ヶ月併用し、再び症状の改善度を評価した。

【結果】安中散投与により、間質性膀胱炎スコアは、有意差をもって改善したが、排尿記録におけるデータの明らかな改善は認められなかった。

【考察】安中散投与単独では、排尿回数を減らすことは難しいが、痛みを改善する効果がある可能性が示唆された。

- 1) 菊谷健彦ら：間質性膀胱炎に対して漢方治療が有効であった2症例
日本東洋医学雑誌第57巻 別冊号P256 (2006)
- 2) 関口由紀ら：The efficacy of Japanese Kampo Medicine for interstitial cystitis
日本東洋医学雑誌第55巻 別冊P201 (2004)

6. 激痛を伴う間質性膀胱炎に対する 清心蓮子飲と塩化リゾチームの併用療法について

坂口泌尿器科クリニック
坂口 強

頻尿とは何でしょうか。1982年頃それは潜在性神経因性膀胱と言われ、検査上検出出来ない神経障害があるものと考えられていました。私は、それを疑問に感じ、また、消炎酵素剤のある蛋白分解酵素が頻尿に有効であることがわかりました。さらに1993年頃から、清心蓮子飲や塩化リゾチームが有効であると確認できました。結果は第188回日本泌尿器科学会関西地方会で発表しましたが、それらは頻尿を訴える患者267人中229人85.8%に有効であり、頻尿を完治させた。もし、それらの薬剤が抗炎症作用によって頻尿を完治させたのであれば、間質性膀胱炎にも有効である可能性があり、もし、有効ならば、頻尿の真の原因は慢性炎症であると言えるであろう。そこで、間質性膀胱炎の患者にそれぞれ単独で投与したが、やや有効の程度であった。ただ、両薬剤の作用は同一ではなく、作用点が異なるように思われた。そこで、清心蓮子飲と塩化リゾチームを併用したところ、激痛を訴える間質性膀胱炎の患者7人全員が、2週間で激痛はほぼ軽快し、コントロール可能となった。そして2剤を内服している限り疼痛は再発せず、膀胱容量は増加し、安定した状態となっている。

清心蓮子飲と塩化リゾチームの併用が間質性膀胱炎に著効があったということは、すなわち、これらの薬剤は膀胱に対し抗炎症作用を示したと言える。これらの薬剤が頻尿に有効であるということは、頻尿の原因はある種の炎症であると結論付けられる。

国際禁制学会の過活動膀胱の治療法は単なる対症療法であり、原因に対する治療法を再考すべきではないかと思われた。

激痛を伴う間質性膀胱炎の患者7人に対し、清心蓮子飲と塩化リゾチームの併用療法を行い、全員に著効がみられ、それらの薬剤の抗炎症作用が証明された。